

頭を斜右下方にさした左手、この両手を腹部前で中指の指頭でつけ合わせV字形をつくる（主人の前に立ってかしまってする手の姿態）。——男性或は女性。

珍らしい 掌を内側にした手の集め合わせた五指の指頭を眼の前にしてから、ぱっと五指を開く。眼ざめるばかりの意。

目出度 五指の指頭を左にさして掌を内側にした右手、五指の指頭を右にさし掌を内側にした左手、この両手を胸につけ「嬉しい」の手まね（胸を上下にさする）をして、次に両手の掌を上に向けると直ぐに五指を閉じては五指をぱっと開きながら上へあげる。

目上 男性或は女性を表わした手を目の上辺りにさし上げる。

眩まい 掌を内側にし集め合わせた五指の指頭を眼の前にして、その手をぐるぐる廻わす。

面会 「会う」と同じ手まね。

免職 男性或は女性を表わした左手の上を五指の指頭を前方にさして掌を上向けた右手で横に切る真似をして、「退職」と同じ手まねをする。

免除 免許——省く。

面識 顔——知っている一人。

面倒 握り拳で頭を叩たたき「骨折」の手まね。

面目 (1) 面目を施す。「自慢」と同じ手まね。(2) 面目ない。「恥しい」と同じ手まね。(3) 面目を潰す。「敗ける」(鼻べちや)と同じ手まね。

モ

鑑ける 掌を前に向け、指頭を上にした五指を少し屈めた手を、手前へぐっと手前に

引き寄せる。「金儲け」の場合、初めに「金銭」を表わす。

申訳 「弁解」と同じ。

燃える 「火」と同じ手まね。

もう一度 改めて—また。

目的 「考え」或は「行く」などの手まねをして、次に、五指の指頭を右にさし掌を内側に向けた左手をかなり前方に位置させて、その左手に向って、指頭を直角にさした右手の人差指を進ませて行く。

木曜日 握り拳にした両手の腕（下膊部）

Vを字形に交叉して拳をクルリと半回転させる。木の幹の股のねじれた様態を表現。

模倣 「真似」と同じ手まね。

若しも 「仮りに」と同じ手まね。

悶える 左右に交叉した両手の掌を胸にあ

て、悶える表情。

餅 左手掌の上で、右手で餅をまるめる身

振。

用いる 「必要」と同じ手まね。

勿論 「無論」と同じ、即ち「決まってい

る」

勿体ない 「大切」と同じ手まね。

最も 「初め」と同じ手まねをする。即ち五指の指頭を左にさし掌を下に向けた右手を右へ引くと同じに人差指を残して他の四指を折り曲げる。つまり「一」の数になる。

もつとも（真） 「ほんとう」と同じ。

尤も 「勿論」即ち「決っている」と同じ手まね。

元 「初め」と同じ手まね。

専ら 唯一つ——一生懸命。

物語 「話」と同じ、即ち「手まね」を表

わす。

桃 合掌した両手をそのまま甲をまるくふくらませて、桃の実の形を模写する。